

1. 活動報告（事務局 記）

7月24日 会則検討委員会

7月27日 イキイキ・エコパークにパネルを出展、藤井、西原会員が参加しました。

8月3日 駐車場の草刈りと看板設置

8月8日 親と子の水辺の教室が行われ、午後から里山ビオトープ二俣瀬にて実施教室が開かれました。林弘之会員と西原会員の“二俣瀬について”と“ビオトープで遊ぶ方法”の説明があった後現地で研修が開かれました。会員から、北村、藤村、田村、林、石井、西原と原田でご案内しました。

8月10日 今日は作る会、会員の吉富壮介さんによる、蕎麦の作り方の勉強会がありました。大変美味しそうな講話に、蕎麦を食べる準備は出来ましたが、まだまだ蕎麦はこれから作るのです・・・もち米同様に収穫が楽しみです。講話終了後、草刈り、草焼きの作業がありました。

2. 今後の予定（事務局 記）

8月24日 蕎麦の種蒔き

8月末 水田穂肥（ほごえ）施肥、うんか等除虫（会員ほか人海戦術）

9月末定 蕎麦の管理上、水田と蕎麦田を繋ぐ丸木橋を設置します 丸太杉は林 武司会員が提供してくれます。

同日 水田にレンゲ草の種蒔き

10月10日 ロータリクラブにて“里山ビオトープ二俣瀬”の講演（講師 西原一誠会員）

10月末 稲刈り、蕎麦刈りがよいていされています。

3. ビオトープ関連（ビオトープで観察される動植物）

今回は原稿がありませんのでお休みします。

4. ビオトープ関連（連載ビオトープ近辺の案内）

“珍説フタマタセ その一、759-01”（車地 吉富 壮介 記）

木田橋の下流300Mに島があった。名はない。車地は「中島」と呼び、木田は「中州（なかず）」と言っていた。タテ300M、巾100Mの細長い島。周囲は竹藪、中は耕して畑にしていた。耕した歴史は知らんが、島は“天孫降臨”の昔からあったようだ。島のおかげで川は二分され、ふた股に分かれて流れていた。この様をみて“フタマタセ”をとねえだしたとある。お上（かみ）から「ここは協立」と示されたが、地元民の強い要望で「二俣瀬」になった、と史実にある。“股”が“俣”になった謂（いわれ）は知らない。昭和の末期、この島を木田の岸へ押しつけ、河川敷公園とし、名も“桜堤（さくらづつみ）公園”となった。“桜堤”名は優等生の様だが、二俣瀬にとっては味もスッポもない名称。折角の「二俣瀬」を没（ぼつ）にした罪は深い。それがあらぬか大雨や台風のたびに水があがり、かけ抜けていく。砂漠になり、また瀬になり、また砂漠…。初めの頃は、流された回数を二回、三回とカレンダーへつけていたが、あまりの回数に、今は数える人もいない。昭和ヒトケタの子どもに言わせれば「水の神様が怒った」と。今は平成の時代、水は厚東川ダムが管理する。「二俣瀬」が消えて久しい。おかげで住所まで「宇部市大字車地」になってしまった。ま、頭に「二俣瀬」がつくのは小学校と、市民センターだけになるろう。せめて今の内に、川土手へ「ここに二俣瀬ありき」と、碑でも建てようか。いっそのこと「759-01」としたら、川は治まるかもしれない。

（下図は 原田満洲夫 記）



5. 会員の声

“まむしと私”

林 弘之 記

「ええ物を見せちゃろうかあ。」「うん。」「ほらあー。」「うわあー、びっくりした。」「こりゃあ、ハミぜよ。」近所のおじさんが懐に手を入れ、ニコニコしながら素手で頭の辺りをつかんで出されたのがまむしであった。近辺ではこれをまむしと言わずハミと呼んでいるが、私の記憶では一番古いハミとの出会いである。これ以来の出会いは数えきれない。毒蛇として恐れられているが、私は特に怖いとは思わず「ありゃ、こねえな所へおったか。ようおったのう。」と思いながら捕まえる手段を考えるのである。ドタバタ・キーキー・キャーキャーするとハミも興奮して牙をむくと思うからである。でも過去3回逃がした経験がある。私にとってハミに噛まれてもおかしくない場面が何回かあった。一番危険だったのは、草刈り機のない時代に、ピオトープ近くの水路の土手で牛の餌用にカマで朝間草を刈っていた時である。手袋は嫌いなので素手で草をつかみカマで刈り取った下を見ると、何と手の下にハミがさらもっていたのである。一瞬ビクツとして離れたが、すぐ捕まえる物を捜した。向うに竹が生えている。ハミは目を離すと逃げやすいので走って竹を切り、それを半分に折ってその間にハミを挟んで帰った。蛇はタバコの臭いを嫌うというが、それで噛まれなかったのであろうか。また、ある干ばつの年に、水当番としてピオトープへの水源となる井手へ行った夜の事である。ポチャンと水の音がしたので蛙かと懐中電灯で照らすと、小川にハミが浮んでいた。長い棒はないかと捜すと木が流れ着いていた。木ですくって井手に上げ、押えつけて袋はどこかと考えた。山側の水路に肥料袋があったのを思い出し、流れる水路を木で泳がせ10m位下った。袋は切り開いてあってこりゃあだめだ。さっきの井手にあったかもと水路を引き返すが流れのために難儀を尽した。すくっては落ちすくっては落ちを繰り返してやっとたどり着いた。袋の砂を出しやっとならぬがひもがない。やむを得ず手で袋の中を握り締めたまま自転車で帰った。袋の内側から手を噛まれぬかと不安なので、片手運転で袋をゆすり続けた。電池の明かりはあっても暗闇が不安を増長させた。さて、捕まえたハミをどうするかというと、まず傷のないものを焼酎漬にする。要領としてビンかプラスチック容器をきれいに水洗いする。でないと臭いのでハミが入らない。栓はプラスチックか金物のねじ込み式がよい。栓は必ずくぎ等で穴をあけておく。袋からハミを出し、棒で頭から7~8cm位の所を押さえ、ハミの頭をビンの中へ入れる。5cm位入れると、あとはスーと入るので栓をする。じょうご等を使い水を入れて泥や砂がないよう洗う。ビンが上向きの際は出ようとするので要注意。水を出す時は下向きにするとハミは上向きに動くのであまり心配ないが、用心のためビンの口を地面につけ斜めにするとよい。きれいになればビンの底に2cm位水を入れ、糞尿を出させるため1週間位置しておく。きれにして水分をしっかりと除き、じょうごで焼酎を入れる。25度でよいが私は35度を使う。大きいハミなら1升位入れ、密封保存する。半年か1年位で焼酎だけを別のビンに移しかえてもよい。もう飲んでもよいが年代物にするとウィスキーの様な色になり、匂いも薄くなる。飲む量は私にもわからないが、少量からはじめて様子を見るのがよいと思う。ちなみに私はスペシャルドリンクとして、朝鮮人参酒数種類をブレンドし疲れた時に飲む。盃の1/3~1/2位をコップに入れ水割で飲む。ある時盃1杯位入ったけど、「まあいいか」と飲んだら翌朝数十年ぶりに鼻血が出た。よく効くのである。子供が出来ない人に「試しに」とあげたら、まもなく朗報が届いた事もある。ハミ焼酎を飲む人は少ない。私がはじめて他人からもらった時、酒席で男性5人の盃に注いですすめたが飲んだのは私一人だった。ハミの好きな人に「捕れたので…」と電話すると「いるいる。今頃は貴重品じゃからの。今からすぐ行く。」とはづんだ返事がくる。後日「床波漁港にええカニがあったから。」とおいしくゆでて持参される。海と山の物々交換が何度あったろうか。傷ついたハミの皮をはぎ、白身を天日干しにされた人もいた。干し肉として食べるのか粉にして飲むかは聞いていない。最後に、私はまだ噛まれてないが「噛まれたら段々紫色になり、パンパンに腫れ痛うてたまらん。」そうだ。医者から血清注射をしてもらうことが命を救う道だが、3年以内に2度目として噛まれると血清が効かないそうだから怖い。近所の犬が噛まれて獣医へ行くと「心配せんでもいい。犬は死にやせん。」と言われたそうだ。人間は次々と新しい病気になる。動物として本来持っている免疫を次第に失し、植物や動物と違う人間物へと進化して行くのであろうか。バカな事は考えずとして、春先きのハミはゆったりと日向ぼっこをしているが、秋のハミは子を孕んで大変危険なそう。会員の皆様、これからの作業はくれぐれもご注意を。

6. 来訪者の声 (東屋のノートより一部抜粋)

これで二度目です。トイレほしいなあ。いきどまりの橋がせつぞくすればいいな。

(7月23日(火)宇部市岬町1丁目 金子尚汰)

トイレと日陰(大きな木)になるような場所があるといいな!ボランティアで環境整備をされているとのこと。お疲れ様です。

(7月23日(火)居能町 わかつき)

主人の写真さつ映に、つきあってついてきました。川の音をききながら、久しぶりにゆったりとした時間をすごしています。しっぽのとれかかったアマガエルや、メダカのむれや、タイコウチ(本物をはじめて見ました。)水辺の草花にも、いやされる気分です。今度は子どもをつれて来ます。のんびりしてたら足の先にカメムシが来てとまりました。いつもはいやなのに、今日はちょっとうれしいです。

(7月25日(木)下関市武久町2丁目71-30 野田陽子)

トンボの撮影に来ました。今日はグンバイトンボねらいで、ウチワヤンマが池のほとりでアシに止まってくれ、いい写真がとれたと思います。グンバイトンボも初めて見ました。感動。ヤマサナエやオオヤマトンボも見たいが挨拶(?)が出来ない...。池の藻が繁殖しすぎて、水が停滞ぎみになっています。少し、水をまわす方がいいのかもしれないのですが...。サギ草を楽しみにきましたが、まだでした。今度また来ます。

(7月25日 下関市 野田司)

今日で来るのは、2回目です。とても楽しいんです...が、トイレがなくてこまります。トイレを作ってください!おねがい。あと、『マムシに注意』というかんばんをみてビックリしました。マムシたいじしてください!

(7月29日(月)著者不明)

今日で調査は2日目です。あと一息で終わるところまで届りつきました。GO 藤さんがいなくても何とかのりきれそうです。気温は連日30を越す暑さですが、高校球児に負けないようガンバります。

(7月30日(火)著者不明)

本日始めてここに来ました。小郡町より来ました。先日知人よりこの話を聞いて、妻と2人で来てみました。自然豊かな風景で心がなごむ気持です。ここを管理されている皆様方ご苦労様です。

(8月4日(日)小郡町 池田)

はじめてきて、さかな、とり、とんぼがいるということがわかりました。

(8月5日 東京 I.T)

トイレがなくても、自ぜんがかんじれて、うれしかったんや。

(8月5日 大阪 こうじ)

ブランコつくって!

(8月5日 沖縄 山本ひろき) (遊園地ではありません。... つくる会より)

今日は自由研究しに来ました。

(8月10日 山口県 SIHO)

15時30分 雨 はすの花がきれいですね。

(8月10日 新南陽市 外村)

いつも横目で見て通っておりました。今日は5才の孫をつれてやっと来ました。孫はとてもよろこび網を振りまわしておりました。最後に放して満足して帰りました。自然にイケ(?)とふれる機会が少なくなりましたね。

(8月11日 上うべ 福田)

プラナリアはね、川の魚を飼っていると嫌でも出現するよ。入れたつもりもないのに自然にわくよ。あとね、川の流れの有る石をはぐると下にいるよ。あるいは、ビニール袋にサシミ入れて一晩つけておくと入ってるよ。逃げない様にビニール袋に細工を。あっ ペットボトルでもワナつくれるよ。

(8月11日(日)雨降ります。誰もいません 著者不明)

静岡県駿東郡長泉町から宿題の自然観察のため訪ねました。

(8月14日 小学4年 拓也)

7. 会よりの連絡事項

稲作田の水管理が大変です。西側の排水水戸が再三にわたって破損します。その都度修理していますが破損した時は水レベルが0 までになっていた事が有りました。

昨年溝よけを作っていましたが、やはり必要です来年は、一緒に田圃にしないで“よけじ”として保存しなくてはなりません

8. 編集後記

朝夕、涼しい風が吹き 今年の夏も峠を越して、どうやら終りに近づいてきました。会員の皆様 元気に夏を過ぎたでしょうか。例年並か、それ以上の猛暑に 二俣瀬ビオトープはどんなだったのか……。時々、思い出す 緑一杯の景色も、余りの暑さと 少々の忙しさに、ついつい行きそびれてしまいました。身近にメダカを、三ヶ所に分けて飼い始め 時々、眺めています。横から見ると、体が透けていて とても涼しそうです。狭い水槽の中でも、のんびりゆったり泳ぐメダカは、水草に囲まれて 案外 狭さを感じていないのかも 知れません。エサを特にやらなくても、ふと 5ミリが1センチに成長したのに気づきます。水と生き物と緑があれば、いつの間にか変化していて それを見つけた時、とても楽しい事だと実感します。慌しく暮らして居る時は マイ水槽で済ませ、これからは又、二俣瀬ビオトープで 汗をかきながら関って行けたらと思っています。この秋は、何がどんなに変化して行くのを見つける事が出来るでしょうか。 去年、気付かなかったのに、新しく一つでも多くの事が 見つけられたら、夢中になって過せそうです。

(大村 美智子 記)